

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	アレンジ 2 (ノーテーション/アレンジ)	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	サウンドクリエイターコース		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1単位		開講時間			授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	二本柳一明・下條慧			実務経験の有無・職種	有、ミュージシャン、作曲家		
学習目的							
譜面と言うツールを用いて他人と意思を疎通させる能力を身につける。具体的には							
1) 譜面を用いて様々な理論を学ぶための準備を行う。							
2) 15回までの学習過程で、結局は基礎的な楽典を学ぶことになる。大局的な視点で音楽を捉えられるようになる。							
3) 4 rhythm section に関するオーケストレーション・スコアリングを学ぶことにより、生・打ち込みに関わらず、アレンジング全般の基礎部分を身につける。							
到達目標							
1) 苦勞せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。							
2) 根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。							
3) 4 rhythm に関して、楽器の特性に関する充分な理解。							
4) 4 rhythm (+ lead 楽器) セットアップでのスコア(およびパート譜)作成。							
教育方法等							
授業概要	1~15回で記譜法、16~30回で 4 rhythm アレンジを扱う。記譜法を学びつつ、ポピュラー音楽用語全般を広くレビューして行く。授業形態は講義中心となるが、課題量が多めなので、講師二人体制でそれらをチェックすることにより、徹底的な理解を目指す。						
	後半アレンジセッションでは、各楽器約1回の講義の後、最低1週はその楽器に関する課題実習の時間を取り、その中で楽器の特性とスコアリングに対する理解を個別に指導して行く。						
注意点	前期・後期とも単に「譜面が読める・書ける」ことを目標としているわけではなく、「読み手に余計な推理力を働かせることのない」譜面を作成することを常に念頭に置く。そのためには楽器に関する知識も必要であり、音楽理論も必要になってくる。譜面を書くことで「この先自分は何を学ぶべきか」が、学生一人ひとりに意識付けられるような指導を心がける。授業時間の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	20%	トピックが変わるごとに実施				
	小テスト	20%	リードシートの作成				
	レポート	30%	指定された編成でのスコアおよびパート譜の作成				
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業内容を定着させる目的で、必要に応じて出題				
	平常点	10%	出席率および受講態度				
授業計画 (1回～15回)							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	low interval limit		LIL について				
2回	score 作成に関する注意点		第16回の続きと、score 作成に伴う注意点を把握する				
3回	syncopation①		syncopation をさらに細かく理解し、その際のリズムセッションの扱いを把握する。課題あり				
4回	syncopation②		第18回課題のチェックとブラッシュアップ				
5回	drums①		パーツの把握と記譜法の理解				
6回	drums②		パターンの実践				
7回	bass①		楽器の把握と記譜法の理解				
8回	bass②		ラインの作り方について				
9回	guitar①		楽器の把握と記譜法の理解				
10回	guitar②		打ち込みの実践				
11回	keyboards①		楽器の把握と記譜法の理解				
12回	keyboards②		打ち込みの実践				
13回	最終課題①		個別指導 1				
14回	最終課題②		個別指導 2				
15回	最終課題③		個別指導 3				